

## あとがき

母・良子が短歌を作っていることは、子供としては知ってはいましたが、生前にはほとんど読んだことがありませんでした。一方、父・諭吉は、随想を福島町の発行の「文教いろは」に掲載させていただいており、こちらも読んだことはありませんでしたが、父が体調をくずしたことをきっかけに、小冊子としてとりまとめ、父に喜んでもらえるとともに、子供たちにとっては父の思いを知る良い資料になりました。

このような経緯もあり、母の思いなどを知るための小冊子を作成することは、長男の私の一つの懸案でした。もつと早く作成し、母に見せたかったのですが、結局、母の病没後、おおよそ五年経つての作成となりました。

この短歌集は、母が既に発表している作品を主に整理していますが、中には、短冊などに書き付け未発表のものもあり、この小冊子に入れた方が良いかどうか迷いましたが、残っているものは掲載しました。

また、父は写真が趣味の一つであったため、子供たちが小さかった頃からの写真が、母の遺品としてかなり残っていました。これらの写真は、母、家族・親族、ふるさとを思い出す貴重な資料と考え、母の生涯に関係が深かったと思われるものを選び出し、ほぼ年代順に掲載いたしました。子供たちが知らないご友人関係などの写真もありましたが、今となつては知る由もないため、私たち家族と母の実家の小川家に関する写真を優先させながら選びました。

この小冊子が私たち家族・親族の他、ふるさと・福島町に関係するみなさまの思い出を呼び起こすきっかけになれば幸いです。なお、不適切な表現や写真などがあれば、ご指摘をお願い致します。

令和五年七月

長男 木寺 佐和記